

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2370401073
法人名	株式会社サカイ
事業所名	グループホーム「あじさい」
訪問調査日	平成20年7月17日
評価確定日	平成20年8月8日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2370401073
法人名	株式会社サカイ
事業所名	グループホーム 「あじさい」
所在地	名古屋市西区中沼町108 (電話) 052-505-8105

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年8月8日

【情報提供票より】(平成20年6月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年8月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円
敷金	(有)(100,000 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合	
	(無)	償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	100 歳
協力医療機関名	康友クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地にあり、春には横を流れる川沿いの桜を楽しむことができる。玄関前は花や野菜が手入れされ、喫煙する入居者の楽しむ場所にもなっている。廊下の壁には、以前入居されていた筆の達人が書いた額や絵が飾られ、落ち着きを感じる雰囲気である。透析に通院している方がおり、毎回職員の手作り弁当を持参し治療を受けている。職員が送迎しているが気晴らしに喫茶店へ寄ったり買い物をして帰ることもある。日中玄関の鍵はかけておらず外出は自由になっているが安全のため、外出時には職員が付き添っている。毎月大曾根の鈴蘭南座へ芝居を観に行くのが恒例になっており、希望者を連れ弁当持参で出かけており、入居者の喜びとなっている。また、中日劇場など個別に希望がある時は職員が同行している。職員はホームの家庭的で暖いところを誇りに思い職員同士が夕食を共にしながら仕事のことや日頃の思いなど自由に語り合う打ち解けた関係を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画を3カ月に1度見直しをするよう指示をしており、実践に取り組むようになった。ADL低下や入退院時は見直しをしている。重度化や終末期に向けた方針では、重度化に関する対応指針があり同意書を頂いているが終末期についてはいろいろな方面で検討しているが、ホームとしては医療体制が整っていないので、今後でもできることを支援していきたいと考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価するに当たって管理者から意義について話があったが、実際に評価することで職員は各項目の意義の難しさを感じたが、日頃のケアを見直すよい機会になり、新たに項目を認識することができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの活動や評価結果を報告している。会員の薬剤師からインフルエンザ、ノロウィルスの予防などその時期に必要な注意事項の話があった。また、「運営推進会議の開催回数は出席者の意見を聞いて決めてはどうか」「ホームの見学を行ってはどうか」「保護者会を行ったらどうか」など、さまざまな意見が会議で出され話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「あじさいだより」や担当職員からの本人の様子を書いたメッセージを郵送している。健康面の変化や連絡事項がある時は電話で連絡し電話連絡記録簿に記入し書面に残している。意見、苦情があった時は苦情受付簿に記入し職員に回覧している。全体会議でも報告され話し合いがされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており行事に参加している。老人会には入会していないが行事に声かけをして下さることがあり、参加することもある。福祉大会にも招待していただき参加している。秋の清掃活動には、公園や川沿いの草刈りに出かけている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住みなれた地域において安心して老いることができ、そして暮らせる環境を提供し要介護者等のノーマライゼーションと自立支援」を基本理念としている。これを分かりやすく「利用者の生活支援、利用者と家族のきずな」など6項目をあじさいの目的として認知症高齢者が「その人らしく最後まで」安心して暮らし生きる喜びを実感していただくよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼の時に唱和しており、日々実践するよう心がけ入居者に接している。スタッフ同士でも生活支援に関して話し合いをし、ケアに反映するよう努めている。2階では入居者に応じた目標を新たに掲げ取り組んでいる。また、職員も一人ひとり介護の理念を持っており、ホームの理念に加えケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており盆踊り大会や餅つき大会に参加している。老人会には入会していないが声がかかり行事に参加することもある。福祉大会には地元に住所がある人に招待があり行事に出かけている。秋の清掃活動には公園や川沿いの草刈に入居者と一緒に参加している。放火の多い時期、消防団の青年団決起大会には激励に出かけている。また、入居者の話を聞いてくれる傾聴ボランティアの訪問もある。今後、地域の人々がホームに足を運べるよう目的を見つけていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価するに当たって評価の意義やねらいについて管理者から話しがあった。職員は評価するに当たって難しさを感じたが日頃のケアを見直す良い機会になり各項目を再認識することができた。昨年の評価で、改善を要する処遇問題や運営上のことは管理者の問題と考え改善に向け努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの活動報告や評価結果を報告している。5月は田楽大会でメンバーも参加し入居者と一緒に楽しんだ。2月の会議では薬剤師からインフルエンザ、ノロウィルスの予防について話があった。そのほかにも、「保護者会を行ったらどうか」、「開催回数を出席者の意見を聞いて決めてはどうか」、「ホームの見学会を行ってはどうか」などの意見が出された。現在、地域包括支援センターの出席がないが今後出席依頼を呼びかけていくことを考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の保護係に入居者のことで毎月訪問し連携をとっている。市役所には人事異動がある時に報告に出かけている。区の介護保険課からは介護で困っているケースや独居で困っている人の相談を受けケアの協力をし区の要望に答えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事の様子やホームでの生活状況、予定表が記載された「あじさいだより」を毎月送付している。その折に写真や担当スタッフからのメッセージ、請求書、領収書なども同封している。健康面に変化や連絡事項がある時は電話で連絡している。電話連絡記録簿に記入し、実情を書面に残している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に市の相談窓口があることを伝えている。ホームに意見箱を設けているが活用されていない。意見や苦情は訪問時に聞くことが多く、管理者が対応している。苦情受付簿に記入し職員に回覧している。苦情はヒヤリハットや事故報告と共にユニット会議で報告され、改善できるよう前向きに取り組んでいる。中には服装のことで家族から意見が出ることもあり、職員で話し合い共有している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や計画作成担当者の異動は家族に連絡をしているが職員の離職は混乱を避けるため入居者への報告はしていない。新しい職員へ期待を寄せるように「都合が悪く休んでいる」とだけ伝えている。新しい職員へはホームの理念や認知症ケアなどガイダンスで説明しリーダーについて業務を覚えてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>名古屋市グループホーム連絡協議会や西区コンソーシアムの研修に職員6~7名と参加している。ホーム内では認知症介護指導の資格を持った職員が指導者として研修を行っている。また、職員は名古屋市で行っている種々研修を、段階に応じて受講している。多くの職員に外部の研修に参加し学んでもらいたいことから、今年から研修、会議参加カードを作り、勤務外や休日参加することで報酬を出している。正社員の参加が増えてきた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者が名古屋市グループホーム連絡協議会の副会長、愛知県グループホーム連絡協議会の研修委員を担当しており多くのホームと交流がある。西区のグループホームの勉強会が毎月あり交流を深めている。他のホームを見学に行った折に長所を見て学びたいという気持ちになったことから始めたもので、他のホームの長所を学ぶよい機会になっている。オープン時に他のホームの研修に参加したことがあり参考になった。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>オープン当初は体験入居があったが今は緊急性のある人がほとんどであり体験なく入居しており、入院先や老人保健施設、独居から拠点を移すことで入居される場合が多い。馴染みの関係を断ち切ってホームに慣れることを求めているのがほとんどである。数時間、見学もかね皆と一緒にお茶を飲んだりおやつを食べたりして、ホームに馴染んでいただいている。希望があれば体験入居ができる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りや掃除、洗濯物たたみ、野菜、花の手入れなどを行ってもらっている。漬物づくりや梅干、肉じゃが、のれんづくりなど入居者の得意分野で力を発揮してもらい、諺を教えてもらうこともある。職員が仕事をしていると入居者が労わってくれたり、出勤すると「あなたが来てくれるのを待っていた」と手を握って喜んでくれることもあり、入居者から喜びと励みを職員はもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望はコミュニケーションをとりながら入居者の言葉から察している。身近なことは希望を引き出せるが思いを引き出せないこともある。把握が困難な場合は行動や表情から察するようにしている。意思表示が分からない時はいくつかの選択肢を出し本人の意向を確認している。服選びに迷う時は適当なものをいくつか出し本人に選んでもらっている。思いや希望は介護計画に盛り込み今後の参考にしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、本人の思いや意向、家族の要望を取り入れて、計画作成担当者が介護計画を立てている。計画内容を具体的に書き出したモニタリング実施表で、毎日できたかどうかチェックしている。入居者がその人らしく、よりよく暮らすことができるように会議やカンファレンスで職員が話し合い、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者ごとに担当職員が決まっており、3カ月に1度担当職員、リーダー、計画作成担当者がモニタリングを行ない見直しをしている。本人、家族の要望や、入退院時や急なADLの低下など変化が生じた時は、必要に応じて話し合いを行ない見直しをしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>提携医療機関以外の受診や通院については原則家族にお願いしているが、状況に応じて有料で支援している。透析の方がお弁当持参で、病院に週3日(火・木・金)通院するため送迎を行なっている。訪問看護ステーションと契約して医療連携体制加算を受けており、24時間健康管理に努めている。月に1回美容院の訪問がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	月に2回協力医療機関である内科医の往診がある。提携医療機関への通院は無料で行なっている。入居前からのかかりつけ医での受診もできる。また、眼科医は月に1回、歯科医は定期ではなく状況に応じての往診がある。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化における指針があり本人や家族に説明し同意書を得ている。訪問看護ステーションと24時間連絡可能な体制があることや、職員の中に看護師がいることが、入居者や職員の安心につながっている。職員はターミナルケアの研修に参加したりしており、ホームとしては終末期ケアを行ないたいとの思いはあるが、まだホームの医療体制は整っていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は日々の関わりにおいて言葉遣いに気をつけ、入居者の誇りやプライドを損ねないように心がけている。また、ユニット会議においても確認している。入居者の部屋に入る時はノックし声をかけてから入るようにしている。個人名の入った書類は事務所以外に置かないようにしているが、日常記載する記録は入居者を見守りながら居間で記入している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	朝食は本人の思い思いにとって頂いているが多くの人が朝食後に薬を飲んでいて、少しでも口に入れて頂いている。入浴を楽しんでもらうため、時間の限りゆっくり入って頂いている。入浴嫌いな人には無理強いせず時間や日を変えている。タバコは量を超えないよう吸う時以外はホームで預かっている人が多い。ビールの好きな人が医師に相談し2週間に1度適量を飲んでいる。入居者がその人らしい生活ができるよう日課計画表を作りそれに向け支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回の夕食はリクエストメニューとなっていて、入居者の食べたい物を用意し、それ以外の献立は職員がたてている。食材は毎日入居者と職員で近所のスーパーへ徒歩や車で買い物に行っている。職員は声かけをして、食事の準備や後片付けなど本人のできることを一緒に行ない、下膳は各自で台所まで運んでいる。時々外食や出前を取ったりして食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日本人の意思を確認して15時30分から20時頃まで入ることができる。家庭用の浴槽で寛いだ気分で入浴できるように入浴剤を入れたり、季節感を大切に柚子湯や菖蒲湯などの入浴を楽しんでもらうよう支援している。昨日入ったからなど理由をつけて入浴を拒否する入居者には3日以上空かないように、職員はタイミングを見ながら入浴する気を起こさせるよう声をかけ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできることはできる限り行ってもらうよう、職員は声かけをしている。金魚の餌やり、洗濯物干しやたたみ、掃除、花壇の水やりなど個々の能力に合った役割をもっている。季節感を忘れないように初詣、ひな祭り、お花見、七夕、クリスマスなどの行事を企画したり、梅干し、らっきょう作りなど入居者の経験や知恵を発揮する場面もつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回ユニットごとでお宮参りやショッピングセンター、外食などの外出支援を行っている。また、毎月お弁当持参で大曾根の鈴蘭南座(7~8人)に希望者は出かけ、3時間のショーを楽しんでいる。個別支援で近所の喫茶店にコーヒーを飲みに行ったり、中日劇場に行ったり、透析の方が病院の帰りに時々コンビニなどに寄って買い物を楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は9時から18時頃まで施錠されておらず出入りが自由にできる。職員は鍵をかけないケアの大切さを意識し、入居者が外出しようとしたら止めるのではなく、一緒について行くなど安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルを作成し、年に1回避難訓練を行っている。毛布のタンカー、防災ずきんが設置され実際に使用して訓練をしている。災害時の備蓄品については飲料水のみ準備している。消防用設備等点検も年に1回行い、避難経路もしっかり確保している。		定期的に避難訓練を行っているが、地域の方などの参加や協力が得られるような体制作りと、いろいろな場面を想定した訓練を実施されることを期待したい。また、いつ起こるか分からない災害に備えて、食料なども準備されるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事摂取量は毎日記録している。水分量については飲む量を1日1を目安としておおまかに把握している。透析の方は医師の指示で1日600ccを目安に摂取量を毎日記録している。毎月体重測定を行ない、グラフにして日々の健康管理に努めている。		バランスのよい献立に努めていることから、定期的に地域の栄養士や保健師などの専門的立場からの助言やアドバイスを受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビ、食卓用テーブル、キャスターと肘掛が付いてゆったりと座れる椅子などがある。壁には日めくりや季節を感じる共同作品（ひまわりと海）、入居者のスナップ写真などが飾られている。また、カメや金魚を飼っていて入居者の癒しになっている。廊下には縁台やソファが所々に設置され、入居者がちょっと座ったり、会話を楽しんだりできるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には木の表札と入居者の好みの生地で作ったのれん、入居前に使用していたのれんなどがかかっている。居室には使い慣れた家具（タンス、机、椅子など）、衣装ケース、テレビなどを置き、壁には自分で作った作品や好きな歌手の写真、カレンダーなどを飾り、それぞれ居心地よく暮らせる工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。